

LEADERS NOW!



不登校児を対象にした富山県のフリースペースを舞台に、当事者や関係者のインタビューを織り交ぜたセミドキュメント映画「不登校の真実」。「生まれた日に浴びた光をあなたは覚えていますか？」の歌詞で始まる花房さんの「命はじまり」は、同映画DVD主題歌としてエンディングを彩った。独特の低音とのびやかな高音、更には魅惑的な裏声で見る者に命の大切さを届けた。「まさか私の曲が映画の主題歌に選ばれるとは思っていませんでした、凄くうれしかったです。映画の試写会の時に、ウルウルと涙が溢れてきたのを今でも覚えています」。二十歳を前に、育ててもらった両親や周囲への感謝を忘れてはいけないという思いから「命はじまり」は生まれた。感情のままに浮かび上がる言葉を紡ぎ、1週間程で完成させた。同曲のプロモーションビデオでは、妊婦の方がアルバム写真をめくるシーンから始まる。「人が生まれた瞬間は、赤ちゃんだけが泣いていて、周りの皆はほっこりとした笑顔になります。人が泣いている姿を見て、周囲が喜ぶ瞬間は誕生した瞬間だけかなと思いました」とほほ笑んだ。

プロの歌手になるため、自由な校風で見識を広められると思い関西大学経済学部に入學し、2016年春に本格的に音楽活動をスタート。数々のコンテストで賞を獲得し、映画主題歌やテレビ番組のエンディングテーマソングにも多数起用され、ShibuyaCross-FMラジオ「SSW SONG BOX」のメインパーソナリティを務めるなど、デビュー直後から精力的に活動の場を広げている。言

▲想いを綴った作詞・作曲ノート

人に寄り添い 背中を押せる歌を

デビューから1年でさまざまなシーンで活躍

◎経済学部 4年次生
花房 真優さん



デビュー以来、「人に寄り添い、背中を押せる歌を届けたい」という想いを秘め、さまざまなシーンで存在感を発揮している花房さん。言葉で想いを伝えることが苦手だったという花房さんは今、シンガーソングライターとしての道を着実に歩んでいる。

新曲「You can fly」
2017年12月27日(水)全国発売!

花房 真優 — はなふさまゆ

■1995年12月、大阪府高槻市生まれ。経済学部4年次生。シンガーソングライター。2016年春から本格的に活動を開始し、数々のコンテストで賞を獲得。「命はじまり」は映画「不登校の真実」DVDの主題歌に。神戸美女コンテストでは「ジャパンエンターテインメントグランプリ」に輝くなど、幅広く活躍中。Blood Orange Records所属。

葉を武器に、さまざまなシーンで存在感を発揮している花房さんだが、原点は「言いたいことを言葉でうまく伝えられない苦しみ」だったという。「小さい頃は引っ込み思案でしたね。特に小学校4年の時に転校し、友達も少なくさみしかったです。環境の変化になじまず、自分の言いたいことがうまく伝えられずにいた10歳の頃、花房さんを音楽の世界に導いたのが映画「タイヨウのうた」だった。難病を患うミュージシャンの少女と、平凡な少年との純愛映画。主演を務めたシンガーソングライターのYUIが、劇中で歌う曲に感銘を受けた。「その映画で流れる音楽を自分も歌ってみたいと思いました。あまり取り柄や特技が無い私でしたが、唯一『上手いね!』と褒めてもらえたものが歌で、もっと褒めてほしいという気持ちがありました」。そこから父のギターで弾き始め、想いをコードに乗せる日々を過ごした。



ライブハウスで演奏する花房さん

高校3年の文化祭では、満員の体育館のステージで「心ひとつに」などオリジナルソングを披露すると、多くの同級生から「この曲を聴いたら自分も頑張れる」「元気が出てきた」という声を掛けられた。自分も人のために力になれると知り、歌で背中を押したいと思うようになった。それまで自分のためだった「歌」が、人のための「歌」へと変わった。「いつか満員の武道館でライブをすることが目標です」。自身のファンを「真優クラスタ(房)」と名付ける花房さん。小さな花や実が群がり一つの塊となる房のように、居場所を与えてくれた音楽で1人でも多くの人の背中を押したい。人の心に寄り添う想いを、花房さんはこれからも歌に乗せ届け続ける。

阪急メンズ大阪独自の プラスαの 魅力をご提案

スタイルメイキングクラブは大人の男のオシャレ塾

◎株式会社阪急阪神百貨店 第1店舗グループ
阪急メンズ大阪メンズインターナショナルファッション
販売部長兼パーソナルサービス部長
西ヶ峰 充宏さん — 社会学部 1993年卒業 —

「ワンランク上の大人の世界へ」そんな世界を提案するのは、阪急メンズ独自の会員制サービス「スタイルメイキングクラブ」を牽引する西ヶ峰さん。テレビ出演や新聞連載、各種セミナーでの講師役を通じてメンズファッションのコーディネート提案している。

世界に名だたるファッションブランドが一堂に会し、「世界の正統派ファッションを極めるフロア」と銘打たれた阪急メンズ大阪3階の中心にあるのが、「スタイルメイキングクラブ」の舞台。ゆったりとした上質な空間で、専属のスタイリストが会員の要望に応じたコーディネート提案している。濃紺のスーツにホワイトシャツ、そしてスーツと同系色のネクタイ、茶褐色の革靴に身を包んだ西ヶ峰さんは「スタイルメイキングクラブは、お客様に最もふさわしい洋服を館内からお選びしてご提案することが可能です。人生のさまざまな節目をはじめ、パーティーやイベントなどTPOに応じた装いのご相談が多いですね。フィッティングをしても、売場を移動する間に前に着た服の感覚は薄れてしまいます。ここでは気になる洋服をスタッフが各売場からご用意しますので、ブランドやフロアの垣根を越えて着比べることができます」と言う。

2008年、「サービス=無料」の慣例を打ち破るように入会金が発生する同クラブを発足。「当時はインターネット通販が右肩上がりに伸びていた時代でした。阪急メンズ大阪及び阪急メンズ東京(2011年)には、コーディネートだけではなくパーソナルカラー診断やお手入れ方法のご提案など、プラスαの魅力をつけることで、百貨店でのお買い物に価値を見出しただこうという思いがありました」。自ら積極的にメディアに露出したことや、阪急メンズ監修で4万部を売上げたファッション誌「大人の男のオシャレ塾」の反響もあり、今では会員数は大阪と東京合わせて約5,000人に上る。近年は婚活コーディネートの相談も多く、「イベントに出席するとたくさんの方からアプローチをされるようになりました」との声も寄せられるとのこと。



西ヶ峰 充宏
— しがみね みつひろ
■1969年奈良市出身。93年関西大学社会学部卒。ネクタイ売り場からインターナショナルブランドまで、あらゆるメンズ分野に精通。顧客目線を大切に、雑誌や新聞等を通じ、メンズファッションの啓蒙活動を行う。高校から社会人リーグを通じて計18年間アメリカンフットボールを続ける。

「着こなしの上達法は洋服の文化的背景を知ることです。例えば、洋服の素材やディテールを大切にしている文化のあるイタリアのシャツは繊細ですから、文化や慣習の違う他国でそのまま展開しても必ずしも受け入れられるとは限りません。湿度、紫外線、街並み、そして洗濯事情などの背景があるからです。その国々の文化を理解し、コーディネートと時代背景を『まとめる』ことで、オシャレ度はアップします」と明かす。西ヶ峰さんが講師を務める各種セミナーも好評だ。「日本のしきたりとして重要な要素である『締める』『結ぶ』『留める』などのワードは、ビジネススタイルにも表されます。だからこそ、しっかりとネクタイを『締める』、紐を『結ぶ』、ボタンを『留める』ことで、印象は各段に良くなります。また、体型では『胸囲-胴囲=14cm]が黄金比の差寸で、洋服は最も格好良く見えます」と講師の顔を見せた。

自らのビジネスファッションを「出来るだけ控え目に」と決めている。華やかに着飾ることで初対面の人と与えてしまう「より高価なものを勧められてしまうのかな…」という不安を無くすためだ。20年以上愛用している名刺入れを手に、「本質を見抜き、長くご愛用していただけることを伝えることが大切です」と胸を張る。大学卒業から25年間、黄金比の差寸「14cm」を維持する西ヶ峰さんは「お客様の婚活、結婚、お子様の誕生、昇進など、人生の節目を飾ったスタイルを記念写真と共にご連絡いただいた瞬間は、本当に嬉しいですね」と格好良く笑った。